

# その他(自転車道利用環境整備モデル地区の整備状況)

平成22年12月2日

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所

山梨県 県土整備部

甲府市 都市建設部

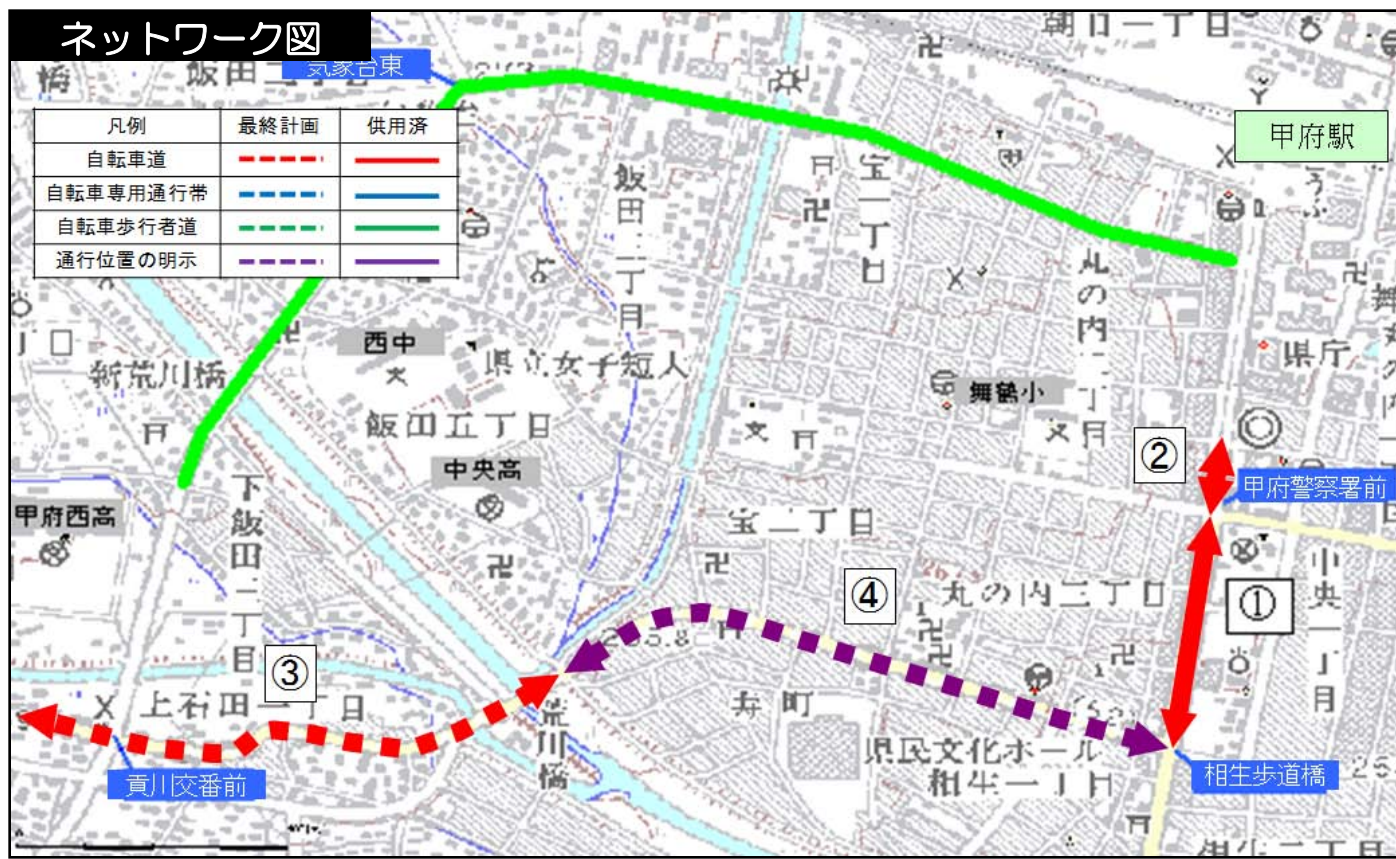
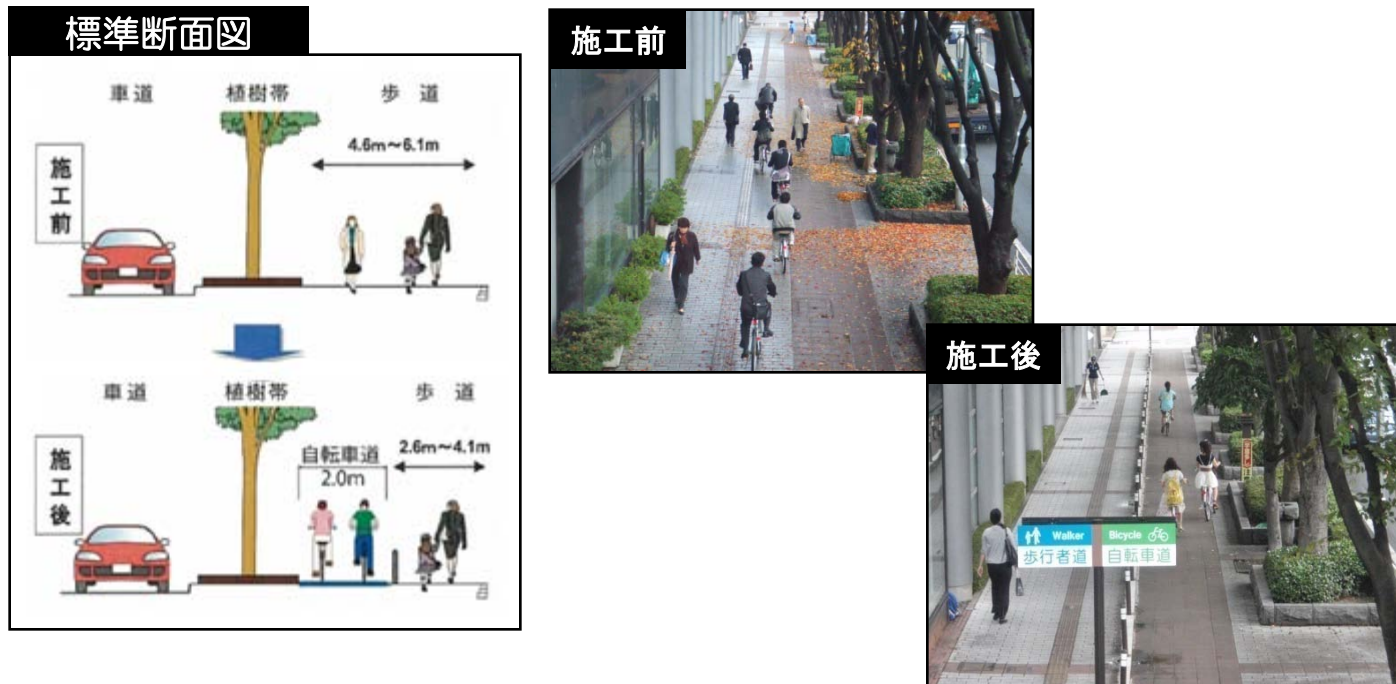
## 目 次

1. 甲府市丸の内周辺地区における取り組み事例 .....	1
(1) 自転車道の整備概要 .....	1
(2) 利用状況（交通量調査結果） .....	1
(3) 満足状況（アンケート調査結果） .....	1
2. 甲府市朝日周辺地区における取り組み事例 .....	2
(1) 自転車道の整備概要 .....	2
(2) 利用状況（交通量調査結果） .....	2
【参考】整備手法別のメリット・デメリット .....	2

# 1. 甲府市丸の内周辺地区における取り組み事例

## (1) 自転車道の整備概要

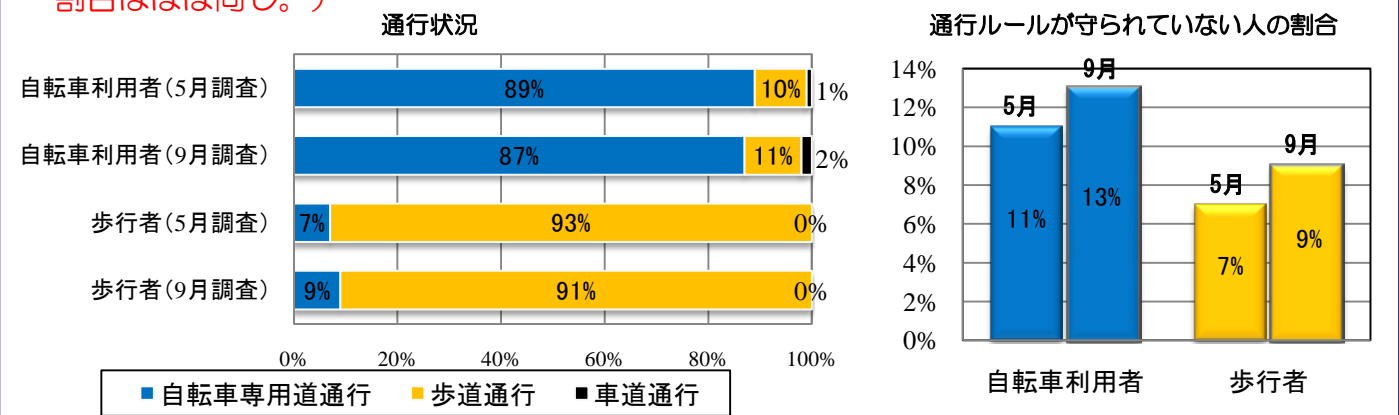
- 平和通りの（国道52号・主要地方道甲府韮崎線）歩道部において、自転車と歩行者の接触事故を防止することを目的に自転車と歩行者を分離した安全で快適な自転車道を整備し、平成22年3月19日（金）より利用が開始されました。



## (2) 利用状況（交通量調査結果：丸の内地区）

- ①交通量調査（第1回）
  - 日時：5月23日（水）7：00～19：00
  - 自転車・歩行者通行量の計測
  - 利用状況 自転車交通量：1,205台 歩行者交通量：1,006人
- ②第2回交通量調査（第2回）
  - 日時：9月14日（火）7：00～19：00
  - 自転車・歩行者通行量の計測
  - 利用状況 自転車交通量：1,525台 歩行者交通量：816人

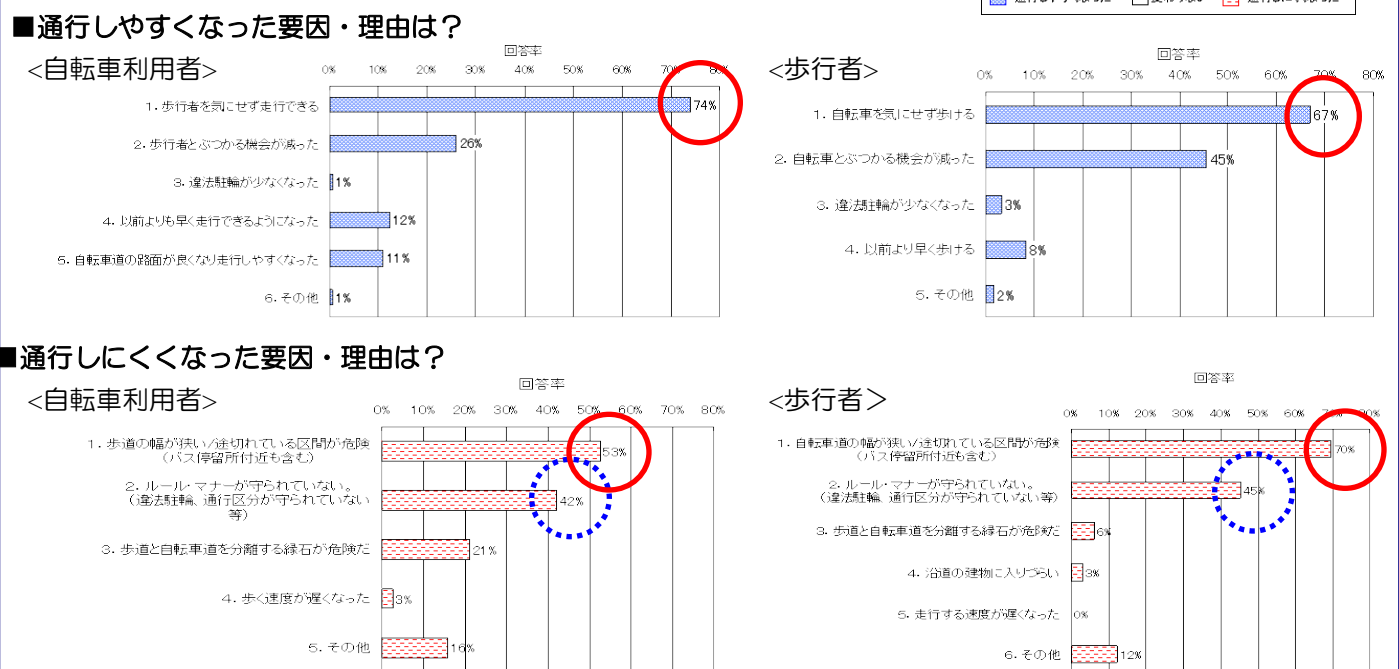
●自転車利用者のうち約9割の方が「自転車道」を利用しているが、約1割の方が「歩道および車道」を通行。同様に、歩行者の約9割の方が「歩道」を利用しているが、約1割の方が「自転車道」を通行。（※実施した2回の調査結果について、その割合はほぼ同じ。）



## (3) 満足状況（アンケート調査結果）

- ヒアリング調査
  - 日時：6月22日（火）9：00～19：00
  - 取得サンプル数 自転車利用者：207サンプル 歩行者：209サンプル

●全体で64%が「通行しやすくなった」と回答。  
●全体で17%が「通行しにくくなった」と回答。

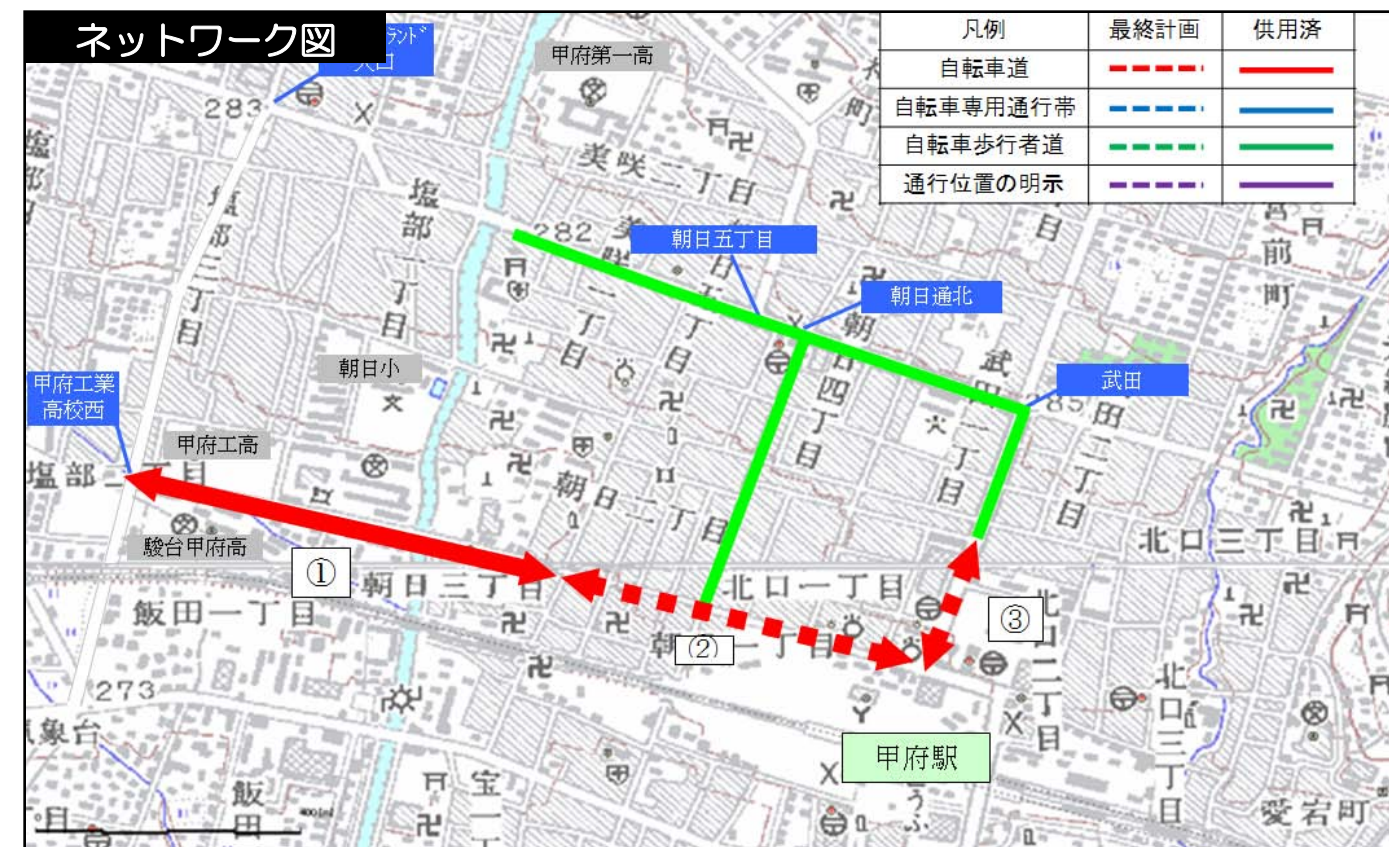
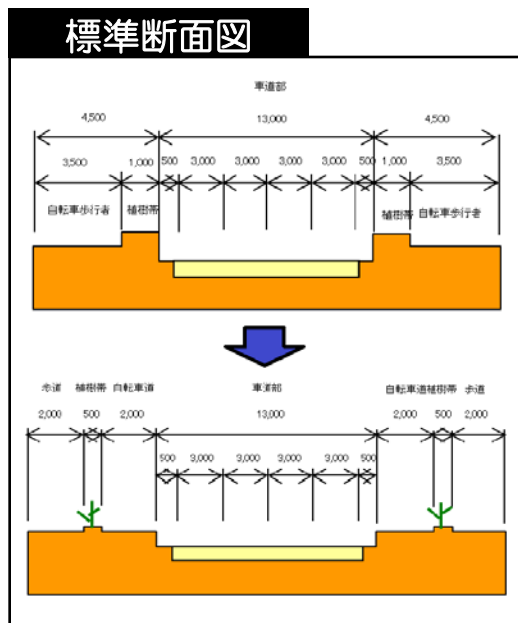




## 2. 甲府市朝日周辺地区における取り組み事例

### (1) 自転車道の整備概要

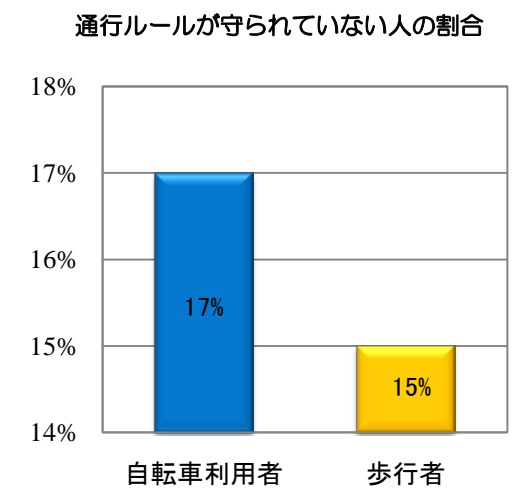
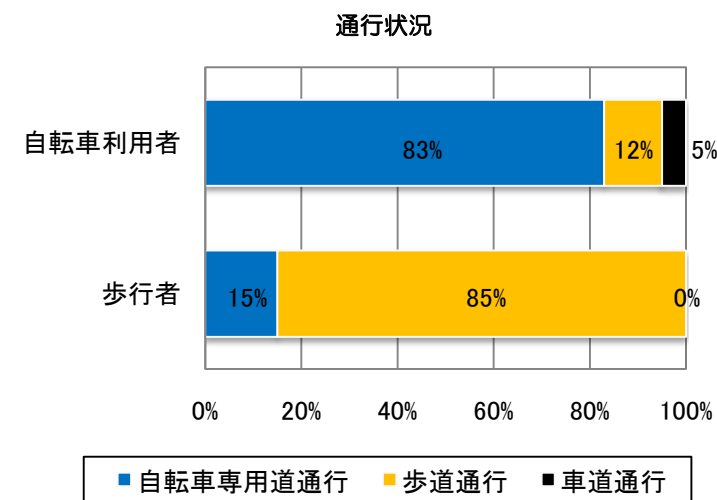
- 市道朝日荒川線の歩道部において、自転車と歩行者の接触事故を防止することを目的に自転車と歩行者を分離した安全で快適な自転車道を整備し、平成22年4月1日（木）より利用が開始されました。



### (2) 利用状況（交通量調査結果：甲府工業グラウンド前）

- 交通量調査
  - ・日時：4月21日（水）7：00～19：00
  - ・自転車・歩行者通行量の計測
  - ・利用状況 自転車交通量：3,021台  
歩行者交通量：1,450人

- 自転車利用者のうち83%の方が「自転車道」を利用しているが、17%の方が「歩道および車道」を通行。同様に、歩行者の85%の方が「歩道」を利用しているが、15%の方が「自転車道」を通行。



### 参考】整備手法別のメリット・デメリット

整備手法	整備イメージ	特徴(○:メリット、△:デメリット)
(1) 自転車道の整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車と自動車、歩行者が接触する危険性が低い。</li> <li>○自動車・歩行者といった他の交通と分離を図ることが出来るため、自転車のスムーズな通行が可能である。</li> </ul>
(2) 自転車レーンの設置		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車空間を明確にすることが出来る。</li> <li>○自転車レーンは車道として整備されるため、平坦性に優れる。</li> <li>▲自転車レーン内の自転車の通行は一方通行(自動車と同方向)のみとなる。</li> <li>▲物理的に分離する構造ではないため、自転車と自動車とが接触する危険性が残る。</li> <li>▲自転車の通行が駐停車車両に妨げられるおそれがある。</li> </ul>
自転車歩行者道における自転車走行位置の明示		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車と自動車とが接触する危険性は低い。</li> <li>○走行位置が明確に区別されるため、比較的スムーズな通行が可能となる。</li> <li>▲物理的に分離する構造ではないため、自転車と歩行者とが接触する危険性が残る。</li> </ul>